

令和7年10月7日（火曜日）

日田市立東部中学校 宮崎 達矢先生の授業です。

授業の単元は、第1学年「1次方程式」。先生Aの年齢（42歳）が生徒Bの年齢（12歳）の2倍になるのは何年後かを考えるといった1次方程式を具体的な場面で活用する授業です。

導入では、問題を提示し、生徒に個人で考える時間を与え、「1年後や2年後など具体的な数で計算をしていくと時間もかかり、大変である。」といった生徒が感じた困りから、効率よく問題解決を図るためには方程式が必要であるということに気付かせ、めあての設定を行いました。

問題解決の場面では、生徒がそれぞれ式や表をもとに取り組む様子が見られました。宮崎先生は、机間指導を通して、生徒の学習状況を見取り、個別指導を行うとともに、立式ができず困りを抱えている生徒が複数いたため、事前に準備していた表や比例式などの考え方を示したヒントカードを学習支援アプリで配布するなど、生徒が自らの考えをもてるような工夫がなされていました。

生徒同士で説明し合う場面では、「18年後は、先生Aは60歳で、生徒Bは30歳。ちゃんと2倍になっている。」といった会話がなされるなど、解がもとの問題の答えとして適切かどうかを確認するとともに数学のよさを実感している様子が見られました。

ぜひ、今後も生徒の困りに寄り添いながら、一人一人が「数学っていいな、便利だな」と感じられる授業づくりに励んでほしいと思います。

